

滋賀県文化審議会次世代育成部会第12回会議 議事概要

- 1 日時 平成30年2月1日(木) 10:00~12:00
- 2 場所 北新館 多目的室3
- 3 出席者 委員:辻委員(部会長)、木下委員、杉江委員、平松委員、山田委員(5名出席)
事務局:村田管理監、文化振興課田島課長、野瀬課長補佐ほか
- 4 議題
- (1) 若手芸術家等の育成・支援に関する主な施策の実施状況について
- (2) 団体等の若手芸術家等の育成・支援の取組について
- ①株式会社 しがぎん経済文化センター
- ②公益財団法人 びわ湖芸術文化財団
- ③公益財団法人 平和堂財団
- (3) その他
- 5 議事録 以下のとおり

■管理監挨拶

■議題

<p>部会長</p> <p>事務局</p>	<p>議題(1) 若手芸術家等の育成・支援に関する主な施策の実施状況について</p> <p>12月23日のびわ湖☆アートフェスティバルの盛り上がりはいかがでしたか。</p> <p>昨年度の9月はお客さんの入りは苦戦をした。出演される方のご都合も9月に調整していただく事がなかなか難しかった。12月のスケジュールになり、年末の忙しい時期でもあったが、文化部活動の行事や秋のイベントなどがある程度終わったということもあり、多彩な方にご参加をいただくことができた。アマチュアのオーケストラや各大学サークルや高校の演劇・合唱・ハンドベルなどに出ていただいた。いろんな方に発表する機会を提供するというこの事業の趣旨において考えると、かなり良かったと思う。今回は1日5,000名の方のご参加があった。時期的にクリスマスが近いこともあり、アートフリーマーケットでもギフトや飾りなどをお買い求めいただき、ロビーが賑わった。びわ湖ホールも客足の遠のく時期だが、全体的に盛り上がった。今年度は時期的にかなり良かったと思う。</p>
-----------------------	---

委員	<p>高校生の方が参加されることにより若々しく素晴らしいなと思った。さらに低年齢化を狙い、小中学生に出てもらうものを考えてはどうか。</p> <p>私は NPO で広島の被爆ピアノコンサートを行い、10 人の小学生ピアニストに弾いてもらったが、1 人のピアニストに対して 10 人程の方に来ていただくことができた。小学生・中学生に合唱などに出演していただき、アットホームにされるのが良いのではないか。</p>
部会長	<p>徐々に低年齢化で広げていくことについてどうか。</p>
事務局	<p>文化部活動自体が、小・中・高校それぞれにあり方が違う。そういった中でどういうお声かけがいいのかということだと思う。小学生向けにはホールの子事業や次世代文化芸術センターで行っている連携授業などで、非常に学校との関係の深い事業があるが、中学生・高校生は今まであまりなかった。部活動自体は各高校でやっているが、合同で何かしてもらうことなどがあまりなかったもので、そういう意味でこの事業としての狙いがある。そのなかで、どういう年齢構成にするかを考えていく必要がある。</p>
部会長	<p>特に演劇などを高校生が大きな舞台で発表できるという事は、自信や励みになる。</p>
委員	<p>入場者は 5,000 人ということで、基本的に入場無料。小ホールは一般の方が有料。無料部分と有料部分で入場者数はどれだけ差がありますか？</p>
事務局	<p>入場料をいただいた方が小ホール、300 くらいのキャパシティ。大ホールや中ホールは客席数を比べると多いため、入場者数も小ホールより多かった。</p>
事務局	<p>小ホールは 100 人単位の定員。小ホールの久末航さんのコンサートは 5~6 割(200 人強)の入場があった。打楽器アンサンブルコンサートはこれより少なかった。全体的には無料のゾーンの入場者が多く、4,500~4,600 人程度。</p>
委員	<p>財政的なこともあると思うが、入場料をとられるならどれくらいのものなのかと思った。有料と無料の部分のバランスが、継続していくうえで大切。</p>
委員	<p>いろんな音楽や芸術を体験・発表できる場があり良いなと思った。時期の部分で、お客さんにとって目標を持って行くことができるのが大事だと思う。時期をどうやって設定するのか、設定したらあまり動かしにくい方が良いので、よく検討されるべ</p>

	<p>きだと思う。</p> <p>小中学生も大事だが、あれもこれもとなると焦点がぶれてしまう可能性がある。逆に年齢の高い高校生にターゲットを置き、クオリティーを保ち、コンセプトを大事にしなければいけない。</p> <p>ただ鑑賞するだけでなく、少しでも体験するような部分が必要。普段、音楽に接しない層に自分もやってみようと思わせるアイデアをいれていくと面白い。</p> <p>アートフリーマーケットも面白いが、せっかくなら食べ物も欲しい。地域住民にアピールするならばまずは食べ物から。音楽に興味のない人にも来てもらい、そこから誘導できるような仕掛けをつくりさらに進化させると面白い。</p>
部会長	<p>ホールとして飲食の規制はどうなっているか。以前は、外に食べ物販売があった。</p>
事務局	<p>ホールの中にはレストランがあるが、ホール内は飲食が基本的に禁止。建物の外だと構わないが、開催が12月だったため、しなかった。ラ・フォル・ジュルネの時期は、それを楽しみに来られている方もいる。</p> <p>体験という意味では、今回は美術のワークショップを2つ行った。近代美術館のものと、デンマークのクリスマス飾り「ユールヤータ」づくり。これは大津市がデンマークのホストタウンということで県庁スポーツ局と協力して実施したもの。</p>
委員	<p>音楽や舞台のワークショップをラ・フォル・ジュルネでは「交流」を意識して行っている。ワークショップで交流は遠い存在のものが近い存在として感じられる。</p>
委員	<p>声楽アンサンブルはワークショップをやりやすいと思う。</p>
委員	<p>高校生など今までに参加の少なかった世代の方などで盛り上がったということで、さらに低年齢化をとということだが、自身が小学校という現場にいることもあり、やはり小さい子も参加させていただけるとありがたい。体験型で音楽だけでなく美術も。</p> <p>近代美術館が今閉館しているが、もともとワークショップなどを瀬田でされていたので場所を変えてやってもらおうと、なかなかそういう機会に触れることができない方にはありがたい。</p>
部会長	<p>これからもこの時期にやっていくのか。</p>
事務局	<p>正式にこの時期と決めているわけではない。今回比較的うまくいったため、来年</p>

	<p>も同じ時期にできたらと思っている。出演者の方々の心積もりもあり、あまり変えるのは良くない。今年度の時期は、コンクールの時期との兼ね合いや練習曲などに組み込んでいただきやすかった。今後、定着させていきたい。びわ湖ホールとしても春にラ・フォル・ジュルネ、秋に大津のジャズイベントがあるので季節的にバランスもとれている。</p>
委員	<p>全体のバランスをとってやっていったら良いのではないか。クリスマスのデコレーションを大学で参加してもらおうとかも良いのではないか。盛り上がりそう。京都では各大学が”あかり”というものをやっているところが多い。子供も参加できるようなものがあれば良い。</p>
委員	<p>大津市とデンマークの関係はどういう関係か。</p>
事務局	<p>東京オリンピック・パラリンピックの関係で全国的にタイアップをする市町を決めようとしている。滋賀県では3つあり、大津市とデンマークでボート。米原市はニュージーランドでホッケー。守山市はトルコで障害者スポーツのゴールボール。姉妹都市ではなく市と県が協力して、大津市にデンマークの芸術家の方が来られて子どもたちと交流したり、トルコの食文化を守山のイベントで紹介をしたりという活動をしている。</p>
部会長	<p>デンマークといえば、デザインや家具のイメージ。滋賀県ではデザインという言葉があまりないので、そういった切り口で協力してもらえたら面白い。スポーツから文化へ、文化面での交流が広がってくると思う。</p>
	<p>議題(2) 団体等の若手芸術家等の育成・支援の取組について</p>
委員	<p>活動の実態をお話いただきましたが、なかなかこういう活動は見えない。音楽や舞台が多いが、美術は少ない。</p>
委員	<p>それぞれの団体の活動が、バラバラな活動ではなく関係性がうまくできていることに気づいた。びわ湖ホールでオペラのレッスン風景を一般の方が観るというのは面白い。海外ではゲネプロを低料金で一般の方に開放したり、音楽を勉強している方に開放したりということを熱心に行っている。ゲネプロは本番とほとんど同じ。すでにされているかもしれないが、そういった事も加えていくのがいいのではないか。作っている過程を見える形にしていくことが聴衆を増やすことにつながる。発</p>

	<p>信者の立場としてうまく使っていくことが大事。</p>
<p>部会長</p>	<p>これについての実施は。</p>
<p>事務局</p>	<p>ゲネプロの公開はこれまでしていなかったが、友の会の会員の方向けにご案内を始めたところ。今は会費を払ってご支援いただいている方にさせていただいている。今後は音楽を学んでおられる方向けなどを考えていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>ぜひ検討していただきたい。素晴らしいコンサートなどをされているが、学生たちも経済状況が厳しい。まずはゲネプロを低料金で足を運んで観てもらいたい。そこからお金を貯めて観てみたいと思ってもらえるかもしれない。突破口になるかもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p>これだけまとまった話を聞いたのは初めてだ。整理してみたいという印象を持った。その中で若手芸術家の定義は何なのかということから整理していくべきだと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロで自分だけで食べていける人 ・他に仕事を持ちながら、食べるのを我慢しながら続けている、食べるには厳しいが頑張っている人 ・完全に仕事を持ちながら、演奏をしたりする人 ・プロにはならないが、いろんな所で頼まれたら演奏をする人 <p>が想定できるが、どのレベルまでを対象にするのかを明確にすることが大事である。</p> <p>支援のジャンルが少ない、偏っている。それは仕方がないが、ターゲットになってないジャンルがあると思う。例えば邦楽でいえば、京都の四宮は琵琶を再興しようとしているが、琵琶を聞く場所はあまりない。</p> <p>県の北と南では鑑賞の機会も違う。当然そこから出てくる芸術家も変わってくる。地域の差というものを見る必要がある。</p> <p>支援の内容を見ると、発表の場が多い。これは当然ないと困る。それ以外に活動費用の助成や、技術支援（指導）。意外と少ないのが活動場所の提供。活動の練習スペースを貸すことも支援の一環だと思う。必要な道具を貸したり修理してあげたり、いろんな支援がある。</p> <p>受賞させるというのは、評価を与えるということで、非常に大事。それをどういう風に情報発信をするのか、抱き合わせてしっかりやらないといけない。</p> <p>ゲネプロの公開は鑑賞支援。海外だと低価で観られるが、日本も若者向けに鑑賞支援をしていくのが大事。</p>

	<p>総合的に考えて、若者が欲しいのは芸術家になりたい人のためのハンドブック（ジャンル別で）だと思う。これから芸術家を目指す人にとって、良いツールになると思う。全体像が見られると面白い。</p>
委員	<p>若手の方がすごく頑張っているのがわかった。そういう方が今度こんなコンサートをするからと自分で宣伝をされている。そういった事をもっと市民の方や県民の方に情報が身近に感じられるものにしたい。冊子など見たことがあるが、置かれているところが限定されている。</p>
委員	<p>平和堂財団のいいところは、3年間継続の助成金。継続して1人の芸術家を育てていく姿勢。幅広くという方向性と、一人の方を末永くいう方向性と二つ必要。そういう意味では素晴らしいなと思った</p>
平和堂財団	<p>平和堂財団では基本的に単発ものはしない。自立化のための援助をしようと思っている。自立するまで3年から4年は助走期間がかかるので、長く支援している。</p>
部会長	<p>平和堂財団でも、音楽分野だけでなく美術分野でも海外留学を考えてもらいたい。</p> <p>しがぎん経済文化センターの調査部というのはどういったものか？</p>
しがぎん経済文化センター	<p>調査部は経済動向や企業動向を分析するのが目的。アーティストについては文化事業部で独自に調査している。銀行の取引関係の中アーティスト情報のやりとりが出てくることもある。</p>
部会長	<p>滋賀県でいろんな作家やその方の活動などの情報をつかめていない。その部分がうまくリンクできれば、有効な活動ができると思う。県の方から積極的に情報交換を盛んに行ってほしい。</p>
委員	<p>顕彰制度を来年度から変更するというので、そこを詳しく教えてくださいか。</p>
事務局	<p>県・文化団体あるいは県庁関係課や市町の関係課から候補者を推薦してもらっているが、なかなかそれだと情報が少ない。とくに次世代文化賞に関しては、音楽と美術だけになっている。それ以外にメディアアートなどいろんなジャンルがあるが、そもそも、そういった情報が提供されない。美術系や音楽系の大学に照会をかけると、そこから県内出身の方があがってくることが多い。それ以外でも活動をさ</p>

	<p>れている方はいるので、滋賀県文化賞を公募をして審査をする仕組みにする。しかし公募だけでは候補者が集まらず、増えないという他府県の状況もある。依頼をして良い人がいればあがってくるという形が良い。依頼先をどう増やすのかが次のステップ。音楽の分野は県内でたくさん発掘されている。美術はなかなかルートが開拓されておらず少ない。情報の厚みを増す方策を考えたい。</p>
委員	<p>開拓をしっかりしていかないと情報が集まらない。すぐには難しいと思うがお願いしたいと思う。</p>
平和堂財団	<p>音楽は公募で集まるが、美術は少ない。オーケストラの現状や生い立ちが違うと思うが、どういったところが課題か、そういった事が一切わからない。支援が必要なのであれば、資料があるとわかりやすい。</p>
委員	<p>美術分野は展示が多い。子供の作品は商業施設やテレビなどいろんなところで展示をしていただける。若手の方の作品を展示してもらえる場をつくってほしい。みんなが足を運べるところで。(わざわざではなく) 作品のお披露目場をお願いしたい。</p>
委員	<p>美ココロパートナーシップという事業の実績は。実際毎日保健室に登校されている生徒がいる。その子の面倒は保健室の先生が見ているという実情。非常に興味がある。</p>
事務局	<p>美ココロパートナーシップという事業は、県芸術家の方を派遣し、適応指導教室との連携、学校に通えない子が芸術活動に携わることによって、心を開かれ少しずつ学校に通えるようになるというプログラムを開発している。</p> <p>1件あたりに手間暇をかけている。生徒さんの対応はデリケート。ご本人の了承も必要。</p>
委員	<p>きっかけは大津のいじめ事件。そういった部分を文化芸術で解決できないかという取組。全国的にも珍しいがかなり効果がある。しかしながらものすごく作業がある。個人と向き合わなければいけないが効果が出ている。芸術家も様々で、子供の心の問題を解決したいと思う人材を育てていかなければいけない。</p>
部会長	<p>作家やアーティストだけでなく、周りのマネージャーや文化に関わる若者をどう育てていくか。そういった部分をトレーニングしお手伝いできれば、少しでも育てていくのではないかと。見習いでも結構ですので、育ててほしい。いろんな有</p>

意義な情報が集まったが、これからも充実していきたい。

それでは本日の議事を終了させていただきます。